［科目区分］: 教育実践高度化専攻共通基礎科目（全コース共通）
［授業科目名］: 愛媛の教育改革
［登録学生数］: 21
［担当教員名］: 城戸・露口・山本・田頭・佐藤

令和４年度「授業評価・授業研究報告」

教育学研究科　城戸　茂

１　授業概要

（１）目標

本授業は、教育実践高度化専攻の全てのコースの１回生を対象とした前期の専攻共通基礎科目である。本授業の主な目標は、教育現場における学習指導や生徒指導、教員の勤務実態等の概要を理解すること、大学院における自らの研究テーマの明確化と研究の基礎的な手法を身に着けることの２点である。そこで、授業の到達目標として①今日的な教育課題について、具体例をあげて説明することができること、②教育課題の改善に資する研究テーマを設定し量的・質的側面から追求することができること、③追求成果をまとめ、説得力のある発表ができることの３点を設定している。なお、現職院生は自分が在籍している学校の課題改善の視点から、また、ストレートマスターは各自が興味・関心の観点から問題解決的な学びを進めることを基本としている。

次に、中核的なＤＰとして、「3. 学校教育にかかわる現代的諸課題について、幅広く専門的な知見をもとに、その対応方策を適切に考え、高度な実践力をもって学校改善・授業改善等に取り組むことができる。〔思考・判断・表現〕」及び「4. 学校に対する社会のニーズと自己の学習課題・研究課題を明確に意識し、実践を省察しつつ先導的に学習し研究する高度な教育実践力をもった専門的職業人として、自己の使命と責任とを自覚し、自主的に社会に貢献しようとする。〔関心・意欲・態度〕」を設定した。

（２）内容

本授業では、研究の基礎的な手法について学んだ後、愛媛の事例を基に、今日的な教育課題について学習する。愛媛に見られる教育課題は、基本的に全国どこにでも見られる教育課題でもある。こうした今日的な教育課題を踏まえ、大学院で追求してみたいと思う自己の研究テーマを見つけ、研究者教員の下で進める課題研究との関連も意識しながら、ミニ研究にチャレンジする。その成果は、愛媛の教育改革推進に向けての一つの提言とも捉えることができる。本授業の主な流れを示すと、次のようになる。

（セクション①　第１回から第３回）

ここでは、研究者教員が中心となり、教育研究の基本的な進め方について講義を行う。講義の中では、ホームページに掲載している修了生の報告書の分析を行い、教育研究の進め方について具体的に学ぶとともに、本授業の最後に行う研究発表会を見据えながら、各自が本授業で行うミニ研究の構想を練る。

（セクション②　第４回から第７回）

ここでは、本学部と連携協定を締結している愛媛県や市町教育委員会の管理職、教育研究団体の長を講師に招き、小・中・高・特別支援学校における教育の実態や、現在、力を入れて取り組んでいる課題改善の取組について事例を基に講話をしていただく。院生は、自己の関心事項と関連付けながら講話を聴き、質問タイムを活用して理解を深める。

また、愛媛の取組を客観的に捉えることができるようにするため、本セクションの最後に、研究者教員が様々なデータを基に、愛媛の教育の実態について、他県と比較しながら学ぶ時間を設けている。

（セクション③　第８回から第 12 回）

ここでは、教育委員会の方針に基づき、学校現場でどのような学習指導や生活指導が行われているか、また教員の勤務状況について学ぶ。授業では、校長経験を有する実務家教員や現職校長から、小・中・高の学校種別に実践事例を踏まえた講話を聴き、質問タイムを活用して理解を深めることとしている。

（セクション④　第 13 回から第 15 回）

ここでは、これまでの講義と並行して進めてきた各自のミニ研究の成果発表を、グループに分かれて受講者全員が実施する。その後、全体の場で各グループの中で高い評価を得た

発表内容を共有する。

以上が本授業の概要である。

（３）地域と連携した特色ある取組

本授業では、教育学部が連携協定を締結している教育委員会や教育研究団体と連携を図り、外部人材を活用して愛媛の最新の情報を基に学習を展開している。また、本年度は対面式での授業が実施できるようになったことから、連携協定を締結している松山市の教育研修センターの教室を基本的に毎回の授業で活用させていただいた。更に、授業の中においては、セクション②において、松山市教育委員会の教育委員の方に「市町教育委員会における教育改革」のテーマで講話をしていただいたほか、セクション②と③が終了した段階で、それぞれ１単位時間を設け、本授業で学生が設定したテーマを追求するミニ研究の方向性について、数名のセンターの指導主事から個別に指導助言を受ける場面を設けたほか、セクション④の発表会では、発表内容に対する講評をしていだくなど、身近にある教育資源を有効に活用しながら授業の質の向上を目指した。

２　授業評価に見る成果と課題

表１は、本年度の前期授業を対象に行った教職大学院ＤＰ対応授業評価結果、表２は本授業の特色ともいえる愛媛の教育をリードしている方を外部講師として招いて行うセクション②の後に行ったリポートの記述内容の一部である。これらを基に、本年度の授業の成果と課題について考えてみたい。

〔成果〕

成果として、次の３点を挙げることができる。１点目は、表１に見られるように４観点全てにおいて同時期に実施された専攻共通基礎科目の平均より高くなっていることである。中でも、ＤＰとして設定した〔思考・判断・表現〕と〔関心・意欲・態度〕の観点は、〔技能〕の観点と併せて平均を 0.1 ポイント以上上回っている。更に、セクション④の成果発表会で実施した相互評価においても、到達目標として設定した①～③の各観点の評価について全員が肯定的な評価を受けていたことから、本授業の目標は一定程度達成することができたと捉えることができる。

２点目は、１点目でも挙げたことであるが、〔技能〕の観点の評価が平均より 0.15 ポイント高くなっていることである。本授業では研究の基礎的な手法の習得も目指していたことから、そのねらいが達成できたと見ることができる。

３点目は、表２を見ると、外部講師の具体的事例を基にした学びが、実践的な〔知識〕や〔関心・意欲・態度〕を高めるうえで有効であったことが伺える。

以上のことから、本授業においては、ねらいの設定とそれを達成するための手立てが適切であったと見ることができる。

〔課題〕

課題としては、〔技能〕や〔思考・判断・表現〕の観点の評価が平均を上回っているものの、他の項目と比べると低くなっている点を指摘できる。本授業で重視している研究手法の習得や、能力育成のためのより効果的な方法等について検討が必要である。

以上の成果や課題を、次年度の本授業の改善に活かしていきたい。

〔表１〕教職大学院ＤＰ対応授業評価結果（4 件法：4 かなり達成　3 やや達成　2 あまり　1 全く）

	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
本授業	3.66（+0.01）	3.52（+0.15）	3.54（+0.13）	3.67（+0.16）

※（　　）内の数値は前期に開講された専攻共通基礎科目の平均との差。

〔表２〕外部講師の授業（セクション②）後の小リポートの記述例（抜粋）

学生A	今回の講話では、愛媛県の行っている教育の方針や、愛媛県が必要としている教員像を知ることができた。私は他県出身だが、必要とされる教員像は自分の出身のものと重複している内容もあり、これが教員に必要な資質なのだと感じた。
現職B	どの講和でも、根拠となる法令があっての実践だということを改めて感じた。（中略）これまでの自分は経験と感覚が全てで子どもたちと向き合ってきた。この１年、様々な分野の知識も得ながら実践力を高めていきたいと思う。
現職C	愛媛県をリードする立場の方々からの講話は、貴重な経験であり、基本的なことから、新しい時代の学校教育の実現に至るまで、どれも深く心に響いた。（中略）学校現場の課題についての講話は、自分の経験と比較しながら興味深く拝聴できた。